



おいしくて安心・安全な

農産物を子どもたちに届けよう!



学校給食への出荷に取り組む
生産者を動画で紹介しています



学校給食への農産物出荷に積極的に取り組んでいる三鷹市、日野市、江戸川区の生産者や栄養士の方等を取材し、その活動を動画にしました。YouTube（東京動画）に掲載しています。



YouTube 東京動画

東京産農産物の
学校給食活用PR動画

<https://tokyodouga.metro.tokyo.lg.jp/iyw7vpcgb0.html>

生産者による出前授業を
地元の学校で行っています



三鷹市



日野市

子どもたちと給食を
食べながら出前授業を

農産物を出荷している生産者が「先生」になり、地元の学校で農業の授業を行います。子どもたちに「東京の農業」への理解を深めてもらい、未来の“東京農業ファン”を増やすための食育活動です。



江戸川区



自作の紙芝居で地元野菜の解説

トウキョウ グロウン
「TOKYO GROWN」は、

東京産農産物等の情報サイトです。
新鮮で安全・安心な東京の名産品、特産品、
農林水産業の魅力を国内外に発信しています。

TOKYO GROWN ▶ <https://tokyogrown.jp/>

東京産
農産物の
情報満載!



© (公財)東京都農林水産振興財団

問い合わせ

東京都産業労働局 農林水産部 食料安全課 食材流通促進担当

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第一本庁舎21階

電話 03-5000-7212

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

学校給食への出荷に 取り組む 農業者PR集

学校給食への
出荷に積極的に
取り組む農業者に
東京都知事感謝状が
贈呈されました。

都内農業者
からの
メッセージ



東京都産業労働局

はじめに

学校給食に地場産農産物を使うことは、子どもたちが、地域の自然や文化、産業について理解を深めるきっかけになるだけでなく、生産者の努力や食への感謝の気持ちを育む大切な食育のひとつです。

東京都では、地産地消の一層の推進に向け、学校給食への東京産農産物の出荷に積極的に取り組む農業者の皆さんを応援しています。

その一環として、学校給食への出荷に貢献された農業者の方々へ東京都知事から感謝状を贈呈する取組をスタートし、令和7年1月24日に贈呈式を行いました。

今回、感謝状を受けられた農業者の皆さんから活動のきっかけや嬉しかったこと、苦労したこと、そしてこれから挑戦を考えている方へのメッセージをいただき、「学校給食への出荷に取り組む農業者PR集」としてまとめました。

これから学校給食への出荷を検討されている生産者の皆様や関係者の方々にとって、少しでも参考になれば幸いです。ぜひご覧ください。

感謝状贈呈

受賞者

◆9区市町 19名

感謝状の受賞者は、各自治体からの推薦、都の審査会を経て決定しました。

推薦基準

◆長年にわたる貢献
(学校給食に30年以上継続して出荷等)

◆顕著な実績
(学校給食に5年以上継続して出荷、かつ出荷拡大・積極的な食育活動への参加等)

受賞者一覧

宇佐美 一彦 (足立区)	大澤 利之 (小金井市)	岸野 國男 (日野市)	宮川 豊 (羽村市)
細谷 浩 (葛飾区)	大澤 かおる (小金井市)	小林 和男 (日野市)	田倉 寿治 (西東京市)
越塚 弘 (江戸川区)	鈴木 沢七 (小金井市)	立川 登美江 (日野市)	田倉 由祈子 (西東京市)
草薙 昭広 (江戸川区)	高橋 健太郎 (小金井市)	旗野 利之 (日野市)	近藤 剛 (瑞穂町)
横川 雅道 (江戸川区)	加藤 芳男 (小平市)	由木 勉 (日野市)	(敬称略)



知事、来賓と参加した受賞者の皆さん

東京都知事 祝辞

(一部抜粋)



祝辞を述べる知事

今日は全国学校給食週間の初日で、感謝状を贈るのにふさわしい日です。

東京は年々農地が減っていますが、給食への出荷が緑を守ることにつながり、また子どもたちが緑について考えるきっかけとなれればと願っています。

皆様も日頃感じるやりがい、楽しさ、時にはご苦労、色々な思いを若い世代に伝え、共有してください。

今後も給食への出荷と食育に、ご尽力いただけるよう、よろしくお願いいたします。

受賞者代表 田倉夫妻 挨拶



受賞者代表挨拶の田倉夫妻(西東京市)

給食への取組のきっかけは、今から40年前に地元の栄養士と我々田倉農園との思いが一致したことです。地元の2校から始まりました。

16年前、畑のない東京23区内の子どもたちにも東京産の野菜を食べて欲しいという思いで23区内にも出荷を開始し、現在は60校に至っています。

私たち大人たちが、明日を担う子どもたちのためにスクラムを組み、諸課題を解決し、より円滑な地場産給食の提供を目指していきたいと思います。



取り組んだきっかけ



嬉しかったこと・苦労したこと



新たに参入する農業者に一言

学校給食出荷に参加しよう！

感謝状受賞者からメッセージ①



加藤 芳男

小平市

ぜひとも若い方にも、積極的に給食出荷へ参入してほしいです



市内の栄養士さんから相談され、学校給食へ農産物を出荷することは、持続的な農業経営につながり、さらに市内農業の持続的な発展にも寄与すると思い、始めました。果樹の生産が主力でしたが、野菜を主力とした農業経営へ移行しました。



早朝の収穫作業や欠損を防ぐ栽培管理、JAへの少人数での出荷・納品作業など苦労はありますが、小学校での出前授業や学童農園へ参加して児童から直接「加藤さんの野菜、すごくおいしかった」という声を聞くと、取り組んで良かったと思えます。



学校給食への出荷は大変なことも多いですが、直売所での販売とは違い販路が確保されているので、農家の安定的な経営につながります。また、子どもたちに栄養価の高い食材を提供することで、地域に貢献できているというやりがいを感じることができます。



高橋 健太郎

小金井市

生産者の販路のひとつとしてだけでなく都市農業の振興に大きな可能性がある取り組みだと思えます



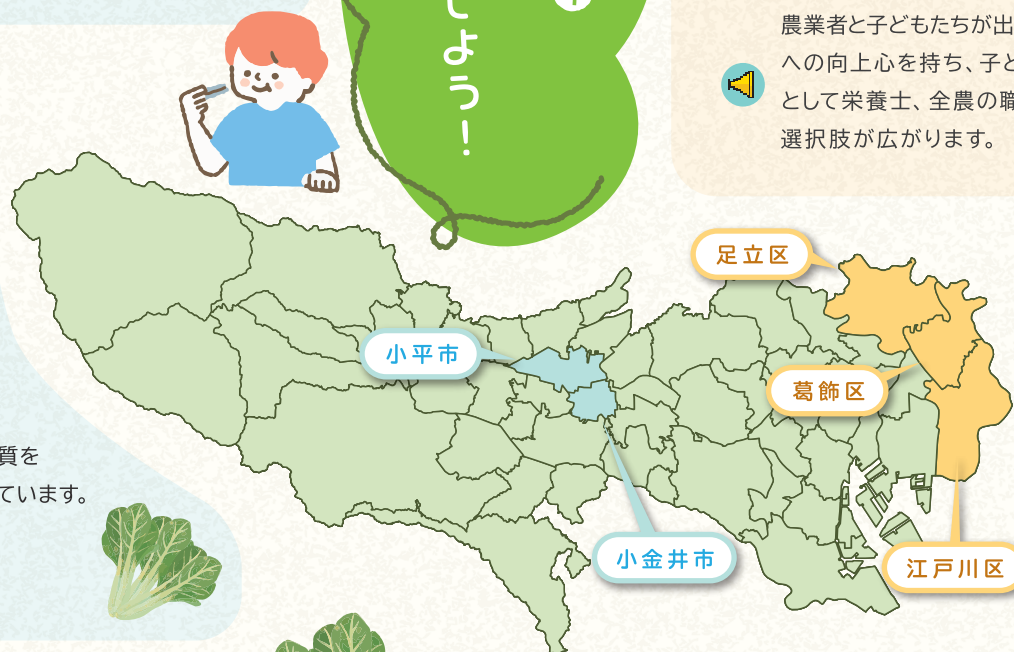
小松菜の生産に力を入れ、JA直売所やスーパーに出荷をしていました。生産量も増えて新たな販路を模索していたところ、JAの職員から声をかけていただき始めました。



学校給食への出荷がきっかけで、子どもたちと接する機会が増え、様々な取り組みが形となりました。生産面では規格と品質を一定にしなければならぬので、自らのレベルアップにつながっています。



多くの方に参入していただき、教育の一環としてもご協力いただきたいと思います。



宇佐美 一彦

足立区



子どもたちとの間に絆を築いていくことができます



近隣の栄養士さんが、私の小松菜を子どもたちに食べさせたいと何度も足を運んでくれ、その熱意に打たれ、始めました。



出前授業や社会科見学で、子どもたちから笑顔でおいしいと言われて嬉しかったです。子どもたちは味に正直なので、えぐみの無い小松菜を育てることが大変です。



農業者と子どもたちが出会い、農業者は生産物への向上心を持ち、子どもたちは将来の職業として栄養士、全農の職員、JAの職員などの選択肢が広がります。

細谷 浩

葛飾区



新たに学校給食への参入を考えている方！歓迎します！



学校の栄養士さんから小松菜の納入について問い合わせがあり、自らの「地域に必要とされる生業でありたい」というポリシーと合致、参入を決意しました。



出前授業や農場見学で、子どもたちの驚きや感激の表情を見ると取り組んで良かったと感じます。気候変動での野菜収穫量のばらつきや感染症の流行による休校対応、資材高騰などの環境変化への対応が大変です。



これから参入をする方は、色々な方法があるので、自分の経営に合ったアプローチでトライしてみてください。他にも先輩や後輩も給食に携わっています。



越塚 弘

江戸川区

自分が育てた野菜を食べて子どもたちが「おいしい」と言ってくれることが喜びです



新たな出荷ルートを探索中に、農業者の仲間から学校給食出荷の話がありました。当時「地産地消」や「食育」という言葉を耳にすることも多く、母校や江戸川区の学校に出荷したいと思い決めました。



子どもたちがおいしく食べてくれたり、小松菜のことを学習し、関心を持ってくれることが嬉しいです。



子どもたちに安全安心な食材を提供できます。また、畑の見学や出前授業の活動を通じ、野菜に関心を持ってもらうことで、東京の畑の必要性を理解してもらえと思っています。



大澤 利之
大澤 かおる

小金井市



一括で出荷できるので少しだけ楽に経営計画が立てられます



給食の栄養士さんからお声かけいただいて始めました。



うれしいことは、子どもたちから「野菜がおいしかった」、「嫌いなものが食べられた」と言われたとき。苦労したの、思っていたより事務作業に手間がかかったことです。



始めのうちは、小売りの商品とサイズが違い、そろえるのが大変ですが、一括で出せるのでちょっと楽になります。栄養士さんが、よく話を聞いてくれて、地場産の野菜を使うよう協力してくれます。



鈴木 沢七

小金井市

子どもたちに喜んで食べてもらえるように給食出荷に取り組みましょう！



販路拡大や子どもたちに地場産の農産物を食べてもらいたいとの思いから始めました。



農産物の数量を多く発注いただけることがよかったです。一方、気候変動の影響による作物への影響で、安定した農産物の供給が難しいです。



新鮮で安全安心な農産物を子どもたちに食べてもらえるよう、がんばってほしいです。



横川 雅道

江戸川区

学校給食に関連する活動も多くあり都市農業についての考えを広められます



JA青年部活動の手伝いから、給食出荷を始めました。



話下手なので学校の行事参加は大変でしたが、子どもたちのさまざまな視点や考え方にふれることができて、励みになりました。



地域に根付いた活動を通じ、多くの人に都市農業を知ってもらうことで、都市農業への理解が広がっていくことが実感できます。



地域に根差し必要とされる農業者であることを目指しています



区内の小学校の先生からJAの青年部に「地元産の小松菜を直接買うことはできないか」という相談があり、地元の子どもたちのためならと有志数名で始めました。



天候不良や病害虫などで心が折れそうになったときもありましたが、子どもたちの「残さずに食べるね」などの嬉しい言葉が励みとなっています。



地域に根差した活動を通じて、必要とされる農業者になるよう、がんばってほしい。



草薙 昭広

江戸川区



取り組んだきっかけ



嬉しかったこと・苦労したこと



新たに参入する農業者に一言



近藤 剛

瑞穂町



気候変動が激しい中、安定した品質が求められる給食出荷は大変ですが、ぜひ若い方にも積極的に挑戦してほしいです

地域の子もたちへ地元で生産された野菜をもっと食べてほしいという思いから、学校給食への出荷を始めました。経営にもプラスになると思いました。

特に印象に残ったうれしいことは、長ネギが嫌いでも普段まったく食べない中学生が、当園の長ネギは美味しく食べられたと言っていたことです。苦労は、昨今の夏季の猛暑、ゲリラ豪雨などの環境下で安定出荷を続けることです。

調整作業の簡易化、価格の安定性など経済的メリットが多いので、経営の安定・拡大に繋がります。ぜひ学校給食への出荷に積極的に挑戦して頂きたいと思います。



宮川 豊

羽村市

子どもたちのために より慎重に丁寧に野菜を扱うことが大切！

平成5年に羽村市農産物直売所がオープン。地産地消の意識が高まり、当時の農業後継者クラブ会長と学校給食センター担当者が話し合い、同クラブに所属していた私が学校給食の出荷をするようになりました。

給食センターの調理師や栄養士の方からの「ありがとう」の声はもちろん、食べた子どもたちからの「美味しかった」が聞けるとさらに嬉しいです。

一方で、決められた量と種類を決められた日時までに出荷しなければならないため、プレッシャーがかかりました。

安定した野菜の生産システムを確立し、責任感を持って出荷してほしいと思います。



地産地消を推進しよう！

感謝状受賞者からメッセージ②



小林 和男

日野市



仲間に誘われて学校給食への出荷を始めましたが 今は子どもたちの笑顔が励みになっています

農家仲間と一緒に学校給食への出荷をやらないかと誘われて、なんとなく引きずり込まれました(笑)。

子どもたちや保護者のみなさんに認知され、納品物が評価され、今日の給食おいしかったと笑顔で言われた時が嬉しいです。

子どもたちの笑顔のために、一緒に給食に取り組みをしましょう!!



旗野 利之

日野市



自分の育てた農産物が 子どもたちの食事になる… 農業の大切さを改めて強く感じています

野菜作りをはじめて5年ほどたち少しは自信が出て来たところに、JAから「地域の学校(当時は2校)の給食に野菜を出荷しませんか」と誘われました。初めての取り組みで大変興味を持ち、参加することになりました。

子どもたちが畑見学に来たり、給食試食会に呼ばれることがあり、学校給食を通して地産地消を実践できていることは、幸せなことだと思います。大変なことは、やはり雨の日、雪の日、収穫、荷造りしないといけないことです。

自分で育てた野菜が、地域の子もたちの食材となることは、仕事をしていて大変な励みとなりますし、農業の大切さを強く感じることにしたいと思います。



由木 勉

日野市



地域農業を盛り上げるためにも 若い方の学校給食出荷への 参入に大いに期待しています



市役所の産業振興課から、「東京産の野菜を学校給食に取り入れているが、さらに地元産で餌にこだわり大切に育てている鶏の玉子を加えたい」と出荷を打診されたのが始まりです。地元で生産している玉子は学校給食に最適だと思いました。

「子どもたちが給食で玉子やりんごをおいしく食べています」などの話を聞くと、やって良かったと思います。搬入時間が以前より短くなり、時間内に届ける事が難しくなりました。りんごや野菜の出荷が重なった時には、人手が足りず困っています。

都市農業は担い手が少なく減る一方ですが、生産地と消費者との距離の近さを強みとして守っていきたいと思っています。直売所や軒先直売だけでなく、学校給食に出荷することで、地場産の良さを知ってもらうきっかけになると嬉しいです。



田倉 寿治

田倉 由祈子

西東京市

40年前に地元の2校から納品を始め、現在は地元併せて60校に拡大！

40年前に地元小学校の栄養士から要望があり、当農園の思いと合致して、2校から納品を開始しました。16年前より、東京産の野菜を23区内の子もたちにも食べてもらいたいとの思いで納品し、現在60校まで拡大しています。

子どもたちが嫌いな野菜を食べられるようになった、と聞いたときが大変嬉しいです。苦労している点は、害虫を含む異物の混入防止への対応です。

学校給食は、まとまった量の注文となるので生産力が求められます。また、おいしいのはもちろんのこと、食の安全という面では、作付けから納品まで気の抜けない事業となるため、それなりの覚悟が必要となります。

